



八村塁さん

(バスケットボール)

NCAA レポート

アメリカ・ゴンザガ大 2年



2017年12月～2018年2月

■基本情報

NCAA ディビジョン I

NCAA（全米大学体育協会）のディビジョン I は、アメリカのトップレベルの大学 351 校によって形成されている。

※ディビジョン分けは大学がスポーツにかかる予算や、スポーツ・チームの数などによって決められている。

NCAA ディビジョン I の大学でバスケットボール選手としてプレーした日本人男子選手は、わかっている範囲では八村さんで 5 人目。日本の大学部活とは違い、登録選手に上限があるため、ディビジョン I のチームに入るだけでも難関。

ゴンザガ大

ワシントン州スポケーンにある私立大学。NCAA ディビジョン I のウェスト・コースト・カンファレンス (WCC) に所属。男子バスケットボールでは 1999 年から 19 シーズン連続で NCAA トーナメント (現在は出場枠 68 チーム) に出場している伝統的な強豪。殿堂入りの名選手ジョン・ストックトンをはじめ、多くの NBA 選手を輩出している。

最新の 2 月 26 日発表の週間全米ランキングでは、AP (メディア投票)、USA トゥデイ (コーチ投票) とともに全米 7 位にランクインしている。



■2017-18 レギュラーシーズン終了。ゴンザガ大、WCC のレギュラーシーズン王座を獲得



2 月 24 日でレギュラーシーズンが終了。ゴンザガ大はカンファレンス成績 17 勝 1 敗で、6 年連続ウェストコースト・カンファレンスのレギュラーシーズン優勝を果たした。この後、3 月に入るとカンファレンス・トーナメント、出場権を得られれば NCAA トーナメントと、まだ戦いは続く。

八村さんはレギュラーシーズンだけですでに 31 試合に出場しており、すでに昨シーズンの出場試合数を上回っている。出場時間も、昨シーズンは 1 試合平均 4.6 分だったのが、今シーズンは平均 20.2 分に出場。得点でも二けたの 11.4 点、リバウンドも平均 4.4 本をあげ、2 年目にして、チームにとって欠かせない戦力となっている。

八村さんの昨季と今季の成績比較 (今季は 2/24 のレギュラーシーズン終了時)

SEASON	GP	GS	MIN	MIN AVG	PTS	PTS AVG	FGM	FGA	FG%	3-PT FG	3-PT FGA	3-PT FG%
2016-17	28	0	128	4.6	73	2.6	28	53	.528	4	14	.286
2017-18	31	1	627	20.2	353	11.4	134	229	.585	4	24	.167
TOTAL	59	1	755	12.8	426	7.2	162	282	.574	8	38	.211

SEASON	GP	GS	FTM	FTA	FT%	O-REB	D-REB	TREB	REB AVG	PF	DQ	AST	TO	BLK	STL
2016-17	28	0	13	24	.542	12	26	38	1.36	16	0	2	8	4	6
2017-18	31	1	81	97	.835	36	101	137	4.42	55	1	21	39	11	17
TOTAL	59	1	94	121	.777	48	127	175	2.97	71	1	23	47	15	23

八村さん

「たまに、このカンファレンスは弱いと言われるんですけど、僕はそうではないなと思っています。すごくいいカンファレンスだと思うし、プレシーズンで他のカンファレンスのチームと戦ったときを考えると、(WCC の) チームもすごくいいチームだなと思える。

その中で、ゴンザガとしてはカンファレンスを勝ち続けるっていうのが定番なので、その中で伝統をしっかり守っていてよかったです」

■ オール WCC ファーストチーム入り

2月27日にWCCから各アワードが発表になり、八村さんはオールWCCファーストチームに選ばれた。ファーストチームはWCC10チーム全選手の中から10選手が選ばれ、ゴンザガからは八村さんを含め、3選手が選ばれている。投票するのは各チームのヘッドコーチたちで、どれだけ八村さんがシーズン中に相手チームにとって戦いにくい選手だったかがうかがえる。

<http://www.wccsports.com/sports/m-baskbl/spec-rel/022718aab.html>

■ ライバル、セントメリーズに土をつけられるが、再戦で雪辱&八村さんも大活躍

ゴンザガ大がカンファレンスシーズンで唯一敗れた相手が、ライバルのセントメリーズ大。今シーズン前の下馬評ではゴンザガより強いとも言われていたチームでもあった。1月18日にゴンザガのホームコートで戦ったときに、終盤で逆転され、71-74で敗れた。

それだけに、2月10日にセントメリーズ大のホームコートで再戦したときには、チームとしても八村さん自身も、試合前から雪辱するという気持ちに燃えていた。セントメリーズのファンで満員となったアリーナで、野次も飛ばされていたが、ゴンザガ大は試合開始直後から最後まで完全に主導権を握り、78-65で完勝し、雪辱を果たした。カンファレン

ス優勝のためにも、鍵となった一戦だった。

その中で大きな役割を果たしたのが八村さん。敗れた1月の試合でもチーム最多の23点（自己最多得点）をあげただけに、セントメリーズから警戒されていたが、その中でチーム最多の21点をあげる活躍。ディフェンスでも、相手のポイントガードからセンターまで守ることができる選手として、大きく貢献。ESPNによって全米中継され、NBAスカウトも会場から見る中での活躍だった。



八村さんはこのとき以外でも、相手が強くなるほど活躍することが多く、解説者や記者たちから「ビッグゲームに強いハチムラ」と言われるようにもなった。

八村さん

「チームとしても、自分としても、(セントメリーズは)ライバルっていう意識があるので、他の試合とは意気込みが違うなっていうのは感じます。こういうところ（完全に敵地のムードのアリーナ）でやるのも、逆に好きなので。チームとしてもみんな、野次を言われていると、『いいね、いいね』っていう感じでやっていたので。それがやっぱり、いいほうに向いたんじゃないかなと思います」

■控え選手として戦うメリットを生かす

八村さんはシーズンを通して、1試合を除いて、控えからの出場だった。本人はスタートでも控えでも、試合に出られれば構わないという姿勢で、むしろ控えならではの戦い方として、試合の最初の数分をベンチ見て研究、心の準備ができるメリットを生かすようにしたという。また、将来的に（NBAなど上のレベルに行ったときに）控えからの出場になることが多いということも意識しているともいう。



八村さん

「控えで出るメリットは試合の最初5分ぐらい（試合を）見れること。どういう相手なの

か、自分がやるやつはどのようなをやっているのかというのを見ています。

これから、将来的に考えても、ベンチから出るということも多くなると思う。僕は（スターターか控えかということよりも）出場時間とか、そういうところを気にしているので。そういうところを出て、どれだけ自分のやることをやって、自分のプレーができるかっていうところを大事にしています」

■選手としての成長&戦力として期待される存在に

オフェンスでもディフェンスでも、シーズンが進むにつれてフィジカル面でも慣れ、戦い方のコツもつかみ、チームの中でもメキメキと存在感を増してきている。自分でも試合ごとに手ごたえを感じ、自信を強めているようだ。

たとえば、シーズン前半ではディフェンスでチームから求められていることをきちんと遂行できていないこともあり、そのためにベンチに下げられてしま

う場面もあったが、2月に入るとそういったことも減り、チームのディフェンス戦術の鍵を握るような役割を任されることもでてきた。2月10日のセントメリーズ戦後には、ゴンザガ大のマーク・フューHCからも、「過去には苦労していたディフェンスのアサイメントもきちんとこなしていた」と評価の言葉を受けた。



オフェンス面では、1月上旬には八村さん自身が、チームのシステムの中で戦いつつも、自分の持ち味を出していくことを課題としてあげていたが、これも次第にそのバランスがうまく取れるようになり、チームからも信頼されて勝負を任されることが増え、相手からダブルチームで守られることも増えてきた。

2月22日のサンディエゴ戦では、途中まで、いつも楽々決めているようなゴール近くのシュートも外して苦戦していたなかで、コーチもチームメイトも、終盤の勝負どころで八村さんにボールを集めて勝負を託し、八村さんもその期待に応えようとした結果、少しずつリズムと自信を取り戻し、フリースローを連続で沈め、ジャンプシュートも決まるようになり、チームを勝利へと導くことができた。

12月末から始まったカンファレンスゲームでの八村さんの平均得点は13.5点（チーム最多）。その前のノンカンファレンスゲームでは平均9.8点だったことから、シーズンが進むにつれて成長していったことがわかる。



八村さん (2/22 サンディエゴ戦後に)

「きょうの試合でも、他の試合でも、だんだん（チームの中で自分の持ち味が）できてきていると思う。これから、トーナメントではもっと強いチームと戦っていくので、しっかり気を付けて、チームのやるべきことをやって、自分のプレーを出していければいいなと思っています」

■弟、阿蓮さんたちがスポケーンを訪問

2月半ば、ホームゲームが2試合続いた期間に、八村さんの弟、阿蓮さんたちがスポケーンを訪れた。阿蓮さんは弟であるだけでなく、墨さんも所属していた明成高校の後輩。去年12月、ウィンターカップでは3年生の阿蓮さん率いる明成高校は優勝して日本一になったのだが、その大会中は墨さんも毎試合、インターネット越しに応援していて、優勝したときには、自分が明成高校時代に3連覇したことよりも嬉しかったのだという。

「(明成高校の佐藤) 久夫先生も、僕らが3連覇した後に、そのあとに後輩が優勝したら、お前らの優勝が認められるっていう話をされていて。僕も、正直言って、自分が3連覇したのよりもあいつらが優勝したほうが嬉しかった。明成が頑張ってくれたっていうことで、その分、僕もやらなきゃいけないなと(刺激を受けました)」(八村さん)

阿蓮さんがスポケーンに滞在した数日間は、試合以外の時間もいっしょに過ごすことができて、ふだん家族から離れて暮らしている八村さんにとっては嬉しい家族団らんの時間だった。

阿蓮さんのツイート

https://twitter.com/allen_hachi/status/965889325941407749

八村さん

「スポケーンに来てくれて、試合だけでなく、いっしょに、僕がどういう生活をしているかっていうのを見てくれて、いっしょにいろんなところに行ったりして、よかったです」

2月8日に20歳になった墨さんのために、阿蓮さんは母からの誕生日プレゼントも持ってきてくれた。プレゼントはマフラー。スポケーンの寒さを想像し、少しでも暖かく過ごせるようにと気遣う気持ちがこもったプレゼントだ。ふだんマフラーしないという八村さんだが、それでも「嬉しいです。そういう気持ちが伝わりました」と、母からのプレゼントを喜んだ。

文・写真：宮地陽子